

<学校教育目標> 自ら考え、主体的に判断し、行動する、心豊かで心身ともにたくましい子どもの育成

め の と



11月 霜月

霜降号

長崎市立女の都小学校 学校だより

令和4年11月1日 文責 校長：松田伊知郎

<めざす児童像>

① あてを立ててすすんで学ぶ子

② そみをもってたくましく生きる子

③ もだちとみがきあう思いやりのある子

いよいよ秋の深まりを感じる毎日です。「霜降」から「立冬」へと向かう時季ですので、御家庭でも衣替えなどが進んでいることでしょう。女の都小学校では、これまでの子供たちの様々な努力や頑張りが入賞など目に見える形での結果や成果となって表れ、『実りの秋』真っ盛りです。



～ 安全・安心で気持ちよく生活をしましょう ～

寒さが増したからか、登校時刻が遅くなる子が増えています。また、以前お知らせしましたが、10月から帰宅時刻が午後5時になっています。暗いときや通りに人が少ない時間帯は事故や事件に巻き込まれる危険度が増すので、時間を意識した生活を指導しています。また、周囲や近隣の方々、往来の人、車両などの迷惑になる行為についても指導をしています。周囲のみんなと共に自分も安全・安心で気持ちよく過ごすためには、それらを守ることが重要です。きまりやルール、時季や年齢に応じた過ごし方などを御家庭でも話題にしてみてください。

10月23日の育友会主催による環境整備作業においては、多くの保護者の皆様と児童、職員の参加により、より過ごしやすい環境を整えることができました。

てきぱきと手際よく作業を進める大人の姿に、児童も時間いっぱい使って自分にできることを考え、実行に移していました。私自身も作業をしながら、「率先、協同する大人の姿が主体性のある子どもを育てていくのだなあ」と、そんな子供を共に育てている幸せを感じた時間でもありました。ありがとうございました。



ハンバーガーなどでおなじみの『日本マクドナルド』様と、在宅介護事業所等を経営する『株式会社ENTOWA』様が、「子ども110番の家」として防犯活動に取り組んでいただくようになりました。



『日本マクドナルド』様は、長崎市内10店舗、時津町内2店舗という近郊店をはじめ、県内に23店舗を構える大手チェーン店です。また、『株式会社ENTOWA』様は、「エフ・ステージ」「メディカルネットワーク」「バイタル福祉用具」といった名で長崎市と長与町に11事業所を展開しています。女の都周辺にいくつもの「子ども110番の家」があることは大変心強いものです。通常の業務に加えて、社会貢献活動の一環として子供の安全・安心を守るために取り組んでいただくことに感謝しつつ、できるだけお世話にならないで済む世の中であることを願っています。



～ 文化的な生活を目指して ～

11月3日は、「自由と平和を愛し、文化をすすめる」という趣旨の国民の祝日「文化の日」です。これは、1946年（昭和21年）のこの日に公布された日本国憲法の精神に基づき、1948年（昭和23年）に制定されたものです。その『日本国憲法 第25条第1項』には、「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」という条文があります。いわゆる『生存権』と言われるもので「健康で」「文化的な」という言葉が出てきます。そこで、文化の日を前に「健康」や「文化」について考えてみました。

「健康」とは、1947年に採択されたWHO（世界保健機関）憲章では、その前文において「病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態」と定義しています。自分の『心身が充実』しているうえに『社会的』にも満たされている状態でなければなりません。つまり、人間関係が良好であったり他から認められていたりすることも含め、『個』としても『集団』としても充実していることが「健康」だということになります。

「文化」とは、広辞苑によると「人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果。衣食住をはじめ科学・技術・学問・芸術・道徳・宗教・政治など生活形成の様式と内容とを含む。」とありました。言い換えると、「人為的に、より豊かな生活のために生み出された事や物」というようなことになるのでしょうか。

私たちは社会生活を営み、その中で様々なことを学び、恩恵を享受しています。更に長崎という土地柄は、国内外の異文化や社会を受け入れ、融合し、そこから素晴らしい文化や社会を築いてきた歴史をもっています。隣人であっても生育してきた環境やベースになっている文化は違いますから、それらを排除するのではなく、共感や理解、融合していかなければなりません。つまり、『日本人』『ながさきっ子』は、『自らの思いを磨き、他への敬意と思いやりをもって過ごす』ことが文化的に過ごすということなのです。また、学校では、『共生社会』『インクルーシブ社会』を『特別支援教育』の視点で進めています。集団で生活すると自分と違うところや思い通りにならないこと、うまくいかないこと、トラブルは必ずあるものですが、そのような中でこそ多様性を学ぶことができます。女の都小学校では、いろいろな教育活動を通して、自らの幸福な生活の追求と共にいろいろな立場や思いの人たちの幸福も願う、そして自分ができることを実行していく人を育てる学びを進めています。

☆☆ 受賞おめでとう ☆☆

JA共済小・中学生書道

JA長崎せいひ組合審査

<半紙の部>

佳作 4年 さん

応募者それぞれへの参加賞と学校賞
(体育用巻尺) もいただきました。

10月は学校全体で『履物を揃える』ことに取り組み、トイレのスリッパや靴箱の靴などがきれいに揃うようになりました。『物が揃う、整う』ことは『心が揃う、整う』ことに通じます。「本物は続く。続ければ本物になる。」という言葉の通り、「本物」の子供たちは御家庭でもよい変容が見られるはずです。成長を見つけてみてください。